過言なそか 野製東花

911.3

あるこしらればのろうやれる連ちのる 虚妄くとそろうかう 柳裏と情味の 受していから信意のでで年季も食るす れ話なとおそえ下 いきましてありくれととある風かくあって そんろう後要と無逃るうかとう 都とうしもけの変してるて、虚した 再投東で式亭 りたの建立とうとかれのでは不利 種三清

えかいろう

の妻うろくういてわゆくと目での設したと きろしてはからくいあったとういるの けるしてい一冊とらきま式のは録とありれる いいゆうで通の何とありとからしていらっと の生動了あのかいなっろ五不言子の認とあれ 虚変し自在あれいたれとうかのねとうや くせんとうい連れの家となるでしてはなく くういてこれの好とであるとはいのろう を切るうとにとかってもあとろろうちょう れときてはとやうしてもけるはなると

でするで

きってますては解えなける相名の遺訓 西成数とろう刑罪のにとかったかったろうによっ なとのいかといれたけのな同し変とできる 多して面の空がとわかとしともろしてなと 二様ら取捨していろうにるもらって あるれりたのけられてするするとの きていまでしまっちくからからでなからと おいては修了面を一とった名りのはいあるし の新製あったうろいら角ですっちゃそ の設とうときているよう人の独向とにくれ

方り多元

成的な成件とかべてをしていかとろうとう あってとめかいる同かてたらしも信のはるさ 殺人教母成佛香と同了自己这些看之 ううでをいいてたく儒的の要人を例の要通 きとはつくすあくいもはあるを雇くまり とろうしきうにはあるっまったってるの 自在ありしるいろしも儒の祖しあってれます の国語なしあらってきたよう人の解にと い家中かけたの歌尚しなあってる真が人

自在あってやろいろしいある事とるるかし なんとやけれておろう下を一次の打治とい てはれないのれとう人しをよいきのかのれ 待ときやこれとけてとうる男しいにとるから きていかは毎の五化とあいろうできてまい 时をそれでれのが国しまでかっていてい てい被感言動の好あれい我とも用ときる ーフとうううののの語りり近く一切の窓該 気とうるるとはにくるあやするい人のにれ のれてかでくは、てるかったれてくるだん

高文とるおー丁文里観の塔高了教 けんやうしき保巴南の秋い月十六月け て苦調雨れるるれきると かるれてはるむへくはしてるとてかれれ で立記いきとくてかののはしまってしてればし

有公住民主

はなっているに、あるののとなっている。

東老式同録 大段十二首作 小設五十五條

花工福出事 月になる号とま △岩根の花山橋のう ○言されき野り根のするはしむまっのし ○幸橋のむる山根のる ○花し根人のる 春秋の花人差ぶのる 熱はいいのはのる 〇樣養領人名福日 ○二句一意の花れて

後式の席しなりれます 今月ぞようなどです。す うなれりとます 日代子子に記との事 へ 月とてくるとあいるです △一子のむしてるのり △面を残らのる の南南人月と言る 内心は各門 のは月れ代級のる 今雪し月月写のる △ 同じりなるしもでれてる △る町台よりはとういかろうす のえるれ月のす

書きる物名やま 起向了句作之代事 るできるではけます △かれ芙蓉のす △梅かちのす △省入了世高地の了す 〇幸橋のれしこ様です △は町のはなくれてす のきこうきお附合のつる の「帰凡のれ」草子をのる △れ虫」句はあるる

懐命しる同代事 内合しせるい外は事 百部 七十二候 西海州路上 ゆけで 時宜 云相 超相 有心會教 向附 其人 其場 時分 右、外沿方三十空接公見かる 右七名八年方三一對附公員外で 相子を宣 1000 有 起情 有尾岭 作氏 五十韵 時語 面影

求韵しのねれま 同多いこうなっきやれます △長歌行 △短歌行 ○ 你我行 ○号仙行 の一号他の意刻之一花二月の例あるる 〇名族の東し天前秋二句の例あるる

たと粉序同終

コントケストラ

OF

万法一例序

車老场

けあれく傷書しれままねのずありてかとうと るるの成体ときてしてることが成後とでな たらくた今のはまとろしのかれる通別国の をゆうとそろとはある人の修りの時とく 1月きろしたととを人の変通してかるとう けらると経接自在りてもうるにいいるから 一きたかくを雪めかといくてれしてちとう

あってきれいを花得了るのろしは方連れ えいてももの優にとれてろうとくちれる いっててまするるらんちってはいるいかんと きれいうとういうちゃうされいてるとう 名とはくではし五倫の支とやうけてより いた家れらのるうちであて病性のむうに 名人いりせかのはにちかしれてや今子が活 のるいるかうまくでその向けるいいた とはいくしからかるまる一日とあるようなしもなっと せるのと下したて百部の式せをすりすると

らかる豆

あるくいろったれとうる設とくろうというと 他院八八十年年の新製了一个池路の方具 指食を強のはとうろう方式の論をろれる て一歩るでやするいといるれりはしてから ので言う心解してらんのは今ろいろする されてしてんしてというちまとうういたい そんないるれいてれるもののはったとろ と弱れとかちらり例しながはのからうち ーうろれし連合せるかくかんな安の新さ

いけ他情というろうな神のれえとかをむるも

ねるのけるうしくくてくれはおいれてすべ とろうつなれい多了式同代大作かとあけてか わしみそくかくのうくくりて持きれいたかっ え禄の中にいりなりれのなりていなるのとな 見合き式の内録とそろしそろではしかろう とろいあうきて者をかけれてはるから 記向のなるようしずい書神の実変で生 治寺連郷の中了る建立の内となって 一あっちしつける例のなりてるとうい いてたいちにとうわかけらやれるち

地鳴とあいろて万世の設了はあったとも ねるりとアかいですとめけ次し秋きろか てあるれとなめくことはといるようのことれ 例的家該了用格之一 いいろいく自分するないではなるが一冊と 世合れる王 幸将のならむらり附ろ

でするしなってきるいけれの心格とこかの はお自い的あめまっていってくらっとと 気でしているななとういらくるのなど らら福ときいる まる

それのがわるなんとうかり例の古れのかん けるりををなめが後もろうと中方けれる むとろれんれるかんの数して花りない 信息 年のる 目あり そくなるちょうしん あれいぐれ他情の海なるではつむなくと 了変となめるななとまれても他いむける 不かのがましてきも いむりできるめはしてろって 部ろったりしてしてるかとう かっけてる

格しありも格しありるうしいっとして言れる到 けいの炭後は果らっまいの中心西部了一个你 多福とる孫の曲谷かせある日本のちたいい 集のかをうてかれるとふれありてくれ けてりとなるの意刻せよるなとをなる へ例の多いくするやれるめのた論うなら して了る新しけ二は米の扱かとそろれりねる ら端しならと変情らわられ、新望いん のあるにうちっまに名残の世紀でもつうかの 名福のをと一かのを対しついてはれたか 他的なな人民和の以上他解す一方冬のかち日 子あれるとちってはさんとう一般ない うついかのれるであれる人はない後天 の所たろうてでなといるわれるはずこと いかくら変しるろーろれいな変め大 でするはるに後養なりるうちんと 一花板版一大、工溪、美人 花行からむものまれ一方田 おうろくれる猫のだろと

THE PARTY NAMED IN COLUMN TO PARTY NAMED IN CO

あるとくけもなりなうか

でもよるろうれちゆうちないちて出州教し いるのもなかのあようったあるととりなけ 花がしてりてもられめらると用ゆる設 となっる物地の金属やさらと初去の気 ちるやきろうなだがよってうて秋国のようで るれて子るなったとうけるろいてくだるる のそうってなとく、諸数のけるお舟とたくれ そんからの変とよれるよううかり 諸数となからもるできるい万方のとう いっとしるれいねほしたものありそいらっちゃ してきろりてるるありしれてろうそう 八七州とうい格とう小心詞の花をきてきたして 称をらんやうろんれれのるれりてる とあてそられ他では風りましためあめ ○花記らりとは、行達の憂名数 一次的了化苦的~~之之以我们 我国のちとのちろりはくきり 入金しずらたとのはも

虚安とあのからしや多福と例の秘訣

てきるしてる文章代優海ありとれ

るではてものにしてためれて何めるとにな むあれいまとろれできたしてあるとながっる とも一个他のなは電のときねのるとういけ もほうちてそのをそれのふろう そかではれいきなめられも二折の花りにある け附合を数の新なりて野事のも里しったとう はよ例し花をとかったとうですためったわれる も内自し同作のもれなるれいる。強の意とのそうと けるな句といけいまありはてくそのだったく でうう何の家ほと家ようるれるなるだ 搞的人連多比的治了了一 え福のるととところうちしそれの気はい いありますいかのしれとねくとそらいけれる 花はいてうて何の家語を家子は福るたち 又りのできくむさくかっろっちろうにそうをの 一味をりんとうむるんとのうよいにいからそのことと 高かられて多に早とよるしももまっては △新からているりんまさいちな 一年のゆきといりとようにす るるでしていていかとなっ

秋のなるれいあれるうろううていきると物はれれて け設を数の井はしてるにとてはそろいと金宝 れるわうらうされいからとうきまってはさり てけれのないちゃれい後のだってくまって のこるとあけていいくくもことすったるです

彼了千例万格了了けかの指合去城北利 まておろいとろう一気にろいけれのいたい 胡鼓の花代でするるなの花代るするない そうされの何をかってけ花をいっむるちれい 一くろれてんとうがなんこうことの格しいあり

してはの風とろうあっていますいるは かく万七何の事な通ちろう

同にんととれます

くろうちくて不事だけないからろしか むりくら連加るに同と万動八あれぞれ られてついでして大きなのを様に同いら しずほもがあんちょうもからって 百よいけらしになり次の詞といるしれる で言的の句と戻るしてくまったいれれてい

青南のか致し日のあらいのはしむいかしく 教を向るとのても一きてめのかれせされ け悪なのなまなどのきしい十六七の香のありて けまり高とせしたとてなるようなの数かり 所有此月の附かられい夏人神の風灵化して そくきなのかの同了例の月秋をあれい 多るはかれてうてなるとは見の句に え格の自とあけて 書时の認とろうしろいれ ○南省をありなる神の気要で 小人教代 NATURE OF ME

けってくけの同る何とういろいろんのなると 月のうとあってもこのではそうちんものは そようを記げれのるようをつけてのたろう の歌しての同れるれを信きて内ろう やるしく花むの月しけたあんと宝しは見 め句にとからいて くたんとれるうちとくいろいろして一月のとれ は答の設とねるよりの妻面あんく我らの とついかくい書えるが用とているできるから 〇八月七該おりるさい幅は

素のあり致し日のあらいのおうむいかしく け悪なの称まさとのき、ハナ六七の香のありて 歌ら向るとのても一きりめのなれせされ 附かられりるけいてれいるといれの成えんとて そくきにのちの月子例の月秋を動れい けまりまとせしたとてなるようなの数かり 多くはかよっちてなるとは見の句に と格の自とあけて 書时の設とろうしろしい 南南をありなる社の気要了 小了教代 机花香

けってくけの同る何とうできいろんのなるで そようをかれけれのるようをていまてのたろう 月のきとありてもとのでできるちんかりる やないく花むの月しけたあんとまるは見 の歌人吸ぐの同比のれを信せて何るる子 め句にとからいて はなの設とねるよりの変通あんく我らの くたんとれるるもといろいろいこれで同のでれ とついかくい書れる物用とていきできるから 〇八月七該おりろう小幅海

ちりけるではかのはしていまるるの何い何かん る 論ありにれく連ばの古むりともいろしな ででする。食いできからいするとうなって で何なりなめるれどろうしけはしまるの そく透明の養棒食了る町と考的ない いむ限見代と中でなのけるとなると てあってではかるくきときかめいにあって 子るしいくらねららであやすらてからまと ついりあっとろうゆるの見感いるでいく 〇六月や客してそくありる

むるとうるのれとりてはっちゃろんが彼のれる うでかの用よめできるとなかの設しいと ゆるとふれくか数とないてはらと帰いている あ月和と月と帰てしる月あと様でとし 夏朝上了一年麦名多人路路高了了 ちつそれであ例としちいてれてでうめんと 公ちれれるのにこへらている人はるこ 考しいかけた月のいきかしたれてほうる る月でからなるは様人三月でいる る耳用の変ときる一きできってかりつい

ける同あるゆくそとうるるなりてちの ありしてりいれてはるななのであるれる 看到のは流あっているののかりいうほう そんを行て何いちもあの服みとすい 詩論ありちがを写月れの名とおけてさせれ 公文のいきありしてれられて者割めぬ用 青すれる一人りとありと対っていいい かれず同名子言ればってわるれるしれるよう やなるれるとはあかし一月八月とんはるこ 了できゅうまるののようでは自たの

他者可以智代を揮了と由める大小心活 月がよ他のますてる名とも一一ちい 舒のでありるれ、佐ちの下流とするでん るうける月内でもかのあやあれいかする ありはてはそのほ流しそんをなとって二月 代電しにいるうとかできあれいかくないでる なるのき計せ のなくきてれて吸すよけるとうろうでき ていり日まれいかしていっているとうれの何よ 今を上門」を記るの日の見

古人である。

一つっていなってとるすしゃなや をこれるとった歌ら田のまと教入て け今を他之月のまるろーれずちけるのほる ありいてけをの打きりまるの内ともすい あっれしねる論ならきるやかのかのない ありらえのあやとろれいまるましている と句をの行用あれいなるでしましかはして 一ろじきっい月のいたる秋のましきしてん 月日でれるというとものするれていいなく 一世の家族ある、一世一て月古ならりて下

○こなれ月世事

指合い意るを一ちかり安富す人の句 連れのらなれるするれい一句とものなっちゃん そのりけるのるぬをあるれており用かとう 1月とゆう时を日とこのもといかって 世上的人地震の大人用力工振会ありて次のは そうに懐いましまるめんこうしるのとう ときっているのはできるとうである おうちくらい或られるのかちょうあとし

ラングランド

かてそんなっていけるともて次のある日というも してきたの例の方のころしてかのる向 お向いりはというなし日とからしまったく 到的より目とというるでも 月とぬくといきかの月しかあっきからち きせるというけばるしころのが同とさけ 稀地かけなられるいめられる あららけかってしまるかか をせていれのうかをする とますの同れるもないあ

ちれいかありらいかろうはたいようなるとき けれたそんのでのほうでいてもくろうれ しる人をも或るお向うのかかかりける しなってるをしむのだろうて内とからい てとめる高句の動向ありいの弱のなっなっ 向けるできて麻の男ねろともかり用 弘而と多り好を 一种やはよるのを新りり月という いるけているのははののはり 月七年一七から一ちょう

らりいるこ

二句の向よちっと入うりでその死になる を一次とはうあるうなるとうと とうでとは、とくそと転的のあけれて いなりゃんろくしたとうだいのはいない かりて次の月といいからうまにはる代付を のなれ何とらろうそれ数人かうりり まれのきしてのととう ちらくしきいならぞれも まれたりとゆるのたん人 会られいれの経さられるう

あうろうにいるれれまるあってもうまれのも同 そのやないことのれれる内は内はののおってくると とうと 句作了當用とある」と一子の常的的 場よめらなれてけるとれるたちならしたった で了子竟它也经的敵對了一个的心中一字 てきていいいでうしまでしているいる 光であってるころうとまれとくはんの行う しられるる的のそれであれいれかけの用うっ そういきる一般をいけるとれるろれいけま してているかいを対の格上やいかけいたの 13 Julia

きていて年を例のよっま万化ちろー け附方となれのあ用すてするとを 了元の終年を配合ろ月の衛をちらり さといううちとうれてとなったけるしよー ないれてすめ向れる行あれいからくとはの きれいでよっていてするはこれのん例と をたろー一世ーでをわりの時あいいいろ てきるの国会とれりと了一 竹ををしるよ 月かれ 一切なるだれてありかりきり

○ 月かるるでんれます

け格をあるむちくるれ月のれかう或ぶれか るいではなどもとろん ありる意と内でいるとはもしたするころ 世地見けんほうからちてがよめるからる日 の指合が成人天然の去様と同時を子る 秋ろのや利りの代をきろうこ 姨れめるうちんでしかかれ はらくれめるうねのも

るる了なの前にかってきるかまなではれい る論ふなれとおうせらつとうつなしにいる ちろい田の形容と称をうしやきなうい あっきているとはってからを回去してあっ と花といえ科と月しいるして近い月花 るというて月めけとなくうではくやすい すて何とこはもしきるありれいるに姨なの てできていたおめからとろうちかれたいる そしていている村といいては花とでも 羽のなりのをこて内をむかりのうという

古今机卷五

めいかと名でではうりとあってくると れていけてろれなるいけぞろもかかちる け接から数めら何了吃我川の二長と制 ゆふうししけまるだとら 丁月とない みる同ちかありくれれあるよちなしてけるる ありきろれいけるないろれてるれるのかれるり ろるともむるとからるうと かりようしかと 特ない みかくりりせっされ タマ 教をいるのではるしたい

とないるい月の例ととうへー そろりかくやうかりしるうを万事代例と のし天然のかんとしまろしまでいれいれ きれらいいの何とれてふるといそれ くなどからしなっちらり日めてるとあって 金んしていて内のえるこれいる例も かってはら月のなとももったちゃれます 秋まるんいかこの花みるようできいてきれ 方はとれていくうかられているうちちゃ 西部しることというちり表しりからん

るとく何よれのる うちんとろーー ねむとう神国のれ用りでかのわそうく例の 新とれておむとてはきる月だともうあるべい 代をる通しるういではいな事の人あってきた それるくろいて例の不得上とろうをある あれてると自己のなれているとさればと なして目もの詞とつて花れゆかり月八件

○ 候式の席しる中旬にあ

我完成了不可的孩と了月次のそう方他的 古今的發五

流となるとという一年もやほずの他情と了 奉句とすったねるとおおってあるとくない るとそれをありなんなくろのを人 というではうしてもされいるるしにん そのれれているとこれの他浩くるまの まってくしてかとるにりてて年もろう う或を教放のかるようでしてしらるとっちの 始終を油のるとやきろとかれれ降する 了けるかけむれる正の名のあるれいる後で い論的一或を被言なといい或を哀傷度

あれいる方のかのないかりとうと花の雨 いれるとしつのかっているかりてるなの方面でれる りて海のなってきれれ被言哀傷の者るよ とも一十かるころでれるようなない略な ととうあれまですって安全の高をないて 祝言哀傷の各族のむとからが用めるる ころしないる 書きとますしまては 国族内なの 時分一十一方的作品的有人不同的教 そんあれいはしてお自のはこうあるとという て名孫のむもくのたれるルーンをもいったの から

いかうしいかりとくる事をとれたとけ されて自然作為人は客自人好人家談 よのはねのないもううちにれてそうは家神 るけっていのにれるりなるるをもしるのから 雪したくするとうる弦のむくいくりてん るりならなりの式とあそろる町し雑の かつのわりりる配をつきてはつれる例の てで多格として、きゃしそのの形で △ 軽いのかしょりっれいる で伸やてるめむと一くはく

からうくうできある年間あれ新美のようない

とかれたでけれるでするあったそうの あんうでするそのですとすってはあるとうい け三連らる軍と中旬で前之就降二百部 妻通ふうる用で用のちんとさい そちうををやめるけれるるなるのない 像できてそれないにれてまて 他でとぞ人偏めむけまとう 而ら類ら同にはえたる 一年 にめいしるゆりなる

ちまけのようそいろうて竹のたわのそうるかろう くれいきていくのはれの附合をもてあいる はっく我家のむねともし人偏の他に~~~~ なれていると同た残られれるしかけるる 事一个一般のそんとある一つかなり 一大地用的了了一個人被工家低學 し、またにの中と世がうして名残るれている もっては用ありいまってもありますっていてあせ されいるするちのきまかりできるれるはく ぬと回てされいためってる、用かいらか

方あっていては「帰れるいな舟のでおしてれ ある一年教をそるかちのうちんとも をあやるくるをより用きれてそるでのないな と論る工程上用で書きるからずなな いあるできたはいるかったらい相の向とよれ ○ 書きま物るけま

るのな変なっとからの句やはれんけるな変を

らまれのよれなな客をしるようして

折かりとおがるのは多信

うかい

できず、岩ヨ

資が多八仙人在室しるとといけて暖のまれとうくろねるり あれい変容をそのる同うてかられたった と者をう用からちなくらまのこうとありら て午らったる中しるくとうる くられとうその前も抽物が指令ありて変容 ら後の核からする多の内合でにってか してあらいろる作のきはりとろいか 秋いしさいやるましてのも 吗了小事一钱! 松生儿 冷康とするてるかい 月れ

感 解離粒 唱相接老儿八枝~~~好凌 ありてからこれ合めやりしたをきてしたい あれいいかとよのはれるいるかられ生や雪し けれまのかととれる人子経の分けせたろうで と称らしきやれていけのからるよう、香稿 軽しいうしれしていてれしなるうをのやり とういて流をれいからのでありできるいとし あしるともて枝倒のけと利いる句作のを用 れももとスークれてお話しめるようあういて用 工務学るうぼくそと錯線類倒の

ラーケー

うる句せる北坡倒の用とする名称なしいい 野福枝しるくれし枝とあるいて用かっきと りて放倒のけとすらゆきぬく錯れ、被倒 しあれーかれる事及とあるといめもような 杜作の諸から籍辞顛倒のけることう とうのいくはしてそ句となれ用で用るれ ころうしくないからなける向格もちろれ の知でえなるうとではより、収存さらいれた 結語えをだっちとありってそれをはんではいか い慈好のパーしていきくや事と終しれたとろ

いそうわってのかくとは松の用すてるのかかる あいういうてのいのちゅうとろうときつ する句作の可用なつんできるいから

〇 不字子 路北事

むりいろうるるるではの格と和候りできたん あれて沙なるけれと利めてかしていいたな るからしますれて きとうったく ちょのようものなんしてろうをう

古今少長五

けれるかるのはときてるかっちきなれ を代新期でくろいかり あっちりかなれれる のかにしろうすでかやうらしなかしとか しるとされけてというむろようけ内ので用いるも のかにとふったくしてやけけと格例しるとんせ いむはんしてるちろれいけるからるる むさしゆあるられかっていろしゆうせ らって的のでほうけばっちあめいいろうとるれ それるの附合しての武陵しるうとうも うかかしててきずいにほからの例ろれ

けばたと名残の曲からしっるとつらくとう 詞のからるながって次をとてつてるのなる ある人のかをし とういかきろうちゃったからたでといってい いはるしあるれいちりねしいかとないろく 他でのすていむるるれいなるとるではのない △ ゆうちれしはしくうを勝る 古今少多五 はろくあれてはつしてなるに見る丁 るとうなくしいのあかると はろしくろとしい町のかろう

されらけれの他はよけれるであっちょうすん かくいはほうそうちれてるとその格とやからむ 作うらうるのうるとうありかなとなか け格をかずえるですー 1附りわかりを与ら低句よるむ(一語的 お白となってるなとう何の高くならん の指ようちかあれいではれてきの句からない

○ 数面了有作之比事

中在名連派的各自心附自心数面と向作と此

できる一名的人的自となけているかを 名もそれるようといない我们と数句ときる めお数いろこうつれるなとこれるの作され るるかなれいならくしているもうかりもるよ のたちららら馬の類説しはらて西かいめと様 うてき用と愛いからのなったとうと し執中はありてがあるとよりても體とらく のきにはなるなるとろうというないのなくまであるなくなっちんかられるものなくなられるとうないかられるないのなくないのかられる

古中山多石

けみなっと脚南の春らちょうてによう一個の知到や ある时本智寺代を許しなるのとろう雑談は も幸福のちくを附してあたうんうしんとろいかと そうちはいるころにたのうれのむなろりり とほり彼う幸協のれれ論談とこれいろと教と い作林の色を言うしてなれ次新のる事といっし の通用をあげてるるるるのでなしかさればら もられなりはそろけられるしるいとう そはそうでとそうをというの題記という 八四月月子誠うててまたの中代は特ありまで

いっちれめむられる国人もで幸福のれる をはほうしせきれいかるいやめてく し世紀あるわを省らしろう一ろけるこ様 おるをきられてきいるうちいれるろ 内ったよりて戸様ありおし転向と例のは一ろり 自作を必然地の己様より或を真性行とい それらある人れる愛るあるいて後事うれの金 或名不易流的各人各個人中學万容多 にとめく作められ傷かるれい例の数かいあ入 るなるなるとろれる中之も他とてするを

をかんだった

に上

本から様とおよりにいれなかれとう教がれなるようありとなりへいりとなれななりとうまといいのななかのとはななとはは他であれる高きかんとはなるとはいりて一般のなななくし様のあとれるこれのようにはなるしたないれなって

王子不生

11 1/11

○ 附合してる八外であ

そんまはいるととくあるない連れたのは けるとうなくまれていけん影記しないい ゆとうれ歌から一がりり連るといかった してるあり間方に対あるでる用ををた のとなりしようとはするいしありてるいけ 用い要うなとろうしたしく我们の他にある

りてきるてんせるりかれてきり秋文、十論 十八件ありにするまったるととする自の内 しありまに成るとなるとしきろんちるは し對附る工事方あれとろう世界の意 るいの間るのがあるとを多数の様か あうれる七十所はねるあって人事、記怪 いあるかてろて 各致の変やゆるかし うてる式のなうとはるかりてもなんけ 白くるそけるとうは事るのとんといる そういるなと含れくついうなと通うとう

されいなけの對所でするをよめるればい とけ對とかの看いの表高」をかんでの面側對とらい後一日前のの他的あれて今了歌 しつからいろのなりからるをならいま を對してなくなるれるかれい詞いる對とい あううとを例めることというじょれいも練の されるちいかちの害あんしてとはいれ がなとちろうでいなたの對所と今子新 南いいかあくなっておくろ 親のほねしろか我見せ

一一一个水。老王

門ではるのかとくさくとなるともはたけ 或も有人の附合もあるで、或も今秋の附合 らか内とおかめてそいをえるけてからくなな 七ある一ちろに好国のからそれることの の附分しきる一一切かしと時間をたくれる る気を見福めれてえてけてきるっ有いの 製の對所しからなけのするれとわるる 附言ときろくいる物をあるた妻俗とはる 高供品月の行事とよい三がと多用る の猪のけたといいがありとまる秋とより 學在

古人少多百

を強むらけるかれいそうとのうそのすい あれいこれ一包代的合しある一一大相となり くねくしてくろうつううちのーラれいと そろでかれをらしるれとしなれのある一元 でもうで代表すて同していむとしくで 一般くい季をのむ二便のかさぬりしれ の哀ふたはいかもくちのかり物の 詞とすてかけてるころの用をろしくが相 ときくりれあるななとうていれいい 风俗もそれよる人の挨枚七化院を事就為

なるうしいつうしれんくのをれたともかう わるとういれけのありとはとろいるできるかん 代面れるできるくうくにあるっとれても彼ら そ人の名とさして例の二つうことでしてきい 虚変のでもあれるを教れているう或はは 工時あれてちろ八神のにはようくれ 和系ののはできるれれがの気がしたったってでもってあるとうとうとうとうとうにしまる一ろうとかりと 同くすでも一百にいくうれんたれてなるの事との 旅行可軍者物語のきるくそうのから 古今抄卷五

でするるとうりのうのろいり得よれるけの 智風とおうれいもいかししまれてけれ れてるやっとはるとか奉のななしてこれい けるにうかの気はとまるよううとうのでき ことでいりきをれて人の意取くるとろれる ないろかる所属れかられてなること いてき一月とねてきついってきになっている ーて例める式しるかりーキーとい 降るうれのタれらったく 智風とっれるとためのと彼い

えるいとこんなせ次して行の変とまり次し致 るれよりはきしかものかとますとしかかれ 一般の内含しむ人時上やてをか致らこうる おし秋はの今ずる事るとはあせるかった 離所の一妻とり空後のかるはれてきに 智花でありるかられがちでとろいえ 砂智の気をとててきるやなるれいはいのける さん。予意をせん所属りてするとろ の利ねろいとうあるてしたりにかるとはか い起れの事情りとゆううまに同となるから を という

イラーでもおっちるといれた るるとうないないまとなっていしての 1時はからなる事は用の最早していくすり される事でしているなるがでしては おい事」からまってたるがとはのぎら の気をしるるのかまし

のとうおんなるとうなからあるとうる るしていたるなはなのでは

ないかられるはからっている うはられるとうときてはてきてはくるれている。 まないいまれるがられてるとしますします るあれたころに称しまるでかられるできたから とかったしまらればとはというというないから をなるとうしてるのでは 田子をからいる るとうえばいるとれてとまってきているとう きんをかったとうをなったからとうとれ はなくかはからかけてきろとはなられたしまり けしてもるのできていくとしているという

王安秋中早

那時代

まならの、京はとすとうとしての外が露とかのようととといってきれいくとれり、過からられらのなをしいるをというととというとなるというとなられいとないとなるというとないとがってあるというとは、ないなり、はなり、ないないれくとりとないないなったのなっていいいととまいれいとないなったいっとなっていいいくとしなられいのかんまなわりととまりにいいかんまなわりととまりしまくと

ら今柳巻五

歌合いりを北後人ときんしろった多くとう いからいるんとる目のいはありちっとといるの めあっとあってことういのるとあるりなら その例の工作的あり特長視言のいくとし そんとなる「月花の一かんとれ様ねしら 月花し二折の式かれしるするととりれた 今式ると二花を目のかたありいすの選訓し の流れと被一或人成為人成也の質人的教と てんとくーでんでとうかの时直かり或ない であつうらむすうとうしていていましまい

をよっていると格してある一折くでとせ とされてしていると長行の二行をなる個後 あれていろくるおの論よあせもそくける の新製了てオーで水粉の用かりを発え い时回の當用あり末初の下れてる一

○ 本新の作品了句和代表

多小他での形物というとかれり具候物のいにと ねるの生気は他にありて武いのまきえな かって和る代記は致了であるれていず ラングと

ありれいるかるうて自由ありそけなください を作されてえる前ろうはろうりちゃのま なしるるとははなのなっとすれてを社のたろい 一个行歌行類を世篇了を全有的格 工治を終るられてはるし、假名の一部を用ゆ すりてやしかられるれらろれた初かる うせとなけばしてありかめれるのれとえて 花粉といういてきろん解かかれてはいいの 1個れて和哥連歌の中らの工候和公 へ作消のかけてき用かりもっちなちのかた

本初の序記しあり和侵之様」をからる えるよう一ろうちんなほの四例うてある 本動の他能をけててくいていろを極動の用 同科を他一般となるべて同名と同ない奉祀の て六々の好を一名ですしいつの时とこれから にるとありいて方例ろうれりとていきもとうに 了多一个色但分心長弄起来了个条的成体 八長歌行占公經歌行上了二子の名同と新製 のてでとほうい前と行うと了きられれ行動 你の行とっその行といからち古式のるにかり行 佐人の養宝

七例のそう同かれて花をん他十みる何や あるうか一を換物の婚りて万物しみ十れ されいぐる長歌げんでく事を式の新歌 あれいではいきるてみずるといても目だ 今れいっとからるやみでを連えのるねって しいためんなと、六の長歌、用ある一きい 一台一次の他活あんろうたとるそんの古代な 不自社かにかしてせてとってかいくまれた 一約十つるいまと用いい個をとするうで いるりて裏とやおあとしたりででする

けねしたたちててとを掴動の用ありな は代行といいろれ行といいかられたれたの そからなべいつつるすりゆく経来行と長歌 う 到きの変ねかり表とですってまといる るみのちなしこうも代省略ありてきらや あれてほぼ人来物のどろうんける長歌の の者はいあれい月花の級をあ端てき彼 そうないるのやさろと秋川のそのかられ うんしるよけようなのいあるんとり物しなれる ~一二の打れたとへくつうくと家と例のでうで 与かりまる

られたかってあるとかというかられる るが日となるとととなるしましているとうなる するないとうけられるまかられました いるというというまかからまっているというないと できたいとうせるこかでするとうない これをからいるというというというというと は一はこういとうとうとうというからしか でいっている中の中のでいってというしょ 月本の大日本「一十八日本の本中で かとろうなられているるを到してる

まではしているところうでとりまるととい るうなますなるないないとうというというと のまるるとなっていいとなりとなりというというと とうというないの海路し同まるようとというと あれるとうとうとうとうとうとうとうと

ているはいまるとなるとして田よいい (まなりなられたようななまだののましま) 

一年からずるとうでも国 〇

からりて同至とろれるるとうとしました てれいき他とかれ一むってしまりしてな神のに らうるこからうるたのまもてららう ゆつらとれるででの経来行空花一月 せ物免と方例しいきてねるを何のらく 月花のみれなりとう月秋のあるやるし らておかの客かりに今了きんしをきした い高しなってきりできなのまとうですべる あってはいてまってまれるとあって石むん の代をいりる式りて重要のたとうけてい

る弦のませてるわていていちりとうれ とおうてくりもあるまといいとるとしたの うりと気はのを難して二ーなしや連れの を代をありてまれとうとくろうかん ちんといろう版ナンするとうれる者を出 さくるみでとけてるさく一月花のみなら それいてるとからしうちゃれいけずのたたろう るまるううでもくしているときの月秋 てきなとうちいけてとおれの配く客あれい しついかれめ配し言ふなれいまれたは、ころ

なくない車をから内むこみの設りり そうかくの家体と全然のて用られる人の 同ましるつちのなけってる同でをなけっ るよれらと了一きからみぬまでしての経済 修うてかてなるのとかし、歌をありたれ 自在すて用すると例の不自在とスーー 例のあるくろしもでしれいくうち秋内のまる連 ついころうなろいりむのなって考めの例 の者におんしてくするれれとれもな割の てきないしての方的あれらでよずのおけ 英沙卷五

有用しは「一とう一刀两断のちるとや 石学前一般のからなるて中式方代の的なる いろうれも多まで用とうちるるから例の くるとうる あるとののは関してる ことにあの技論を変いてかく作んとけど 話とし、或を用るの家就とて七遺信のは はくいとろむして中でなるの域は いろうて東路西路の日用とそくらて意明 くよろるて今江町のん例とかってではの

あるつしけ一冊とかいくなねるのでとまっ て方に一例のでくるれてわるでも自己出 たれあんくは江枝論の年とわりませ 用れられ一万時の四名というかろうれた 例とうなの家ほら一世の家践しろう

東花式会之五終

严恒

他でなる

跋

腹

长不是一个有之有少别,各种與也是其所 了一人れ子の家語了了製的れ子同類回 子野を為一人皇君子の中之所為事、先生子路之為人皇君子の中之所為事、先生 之為人養不可回之信順見於丘、乃至 以事」五でできるれいる路し親回しれるである

武陵の芭蕉るれた松子一派の本よるならろ 新してさりた人間の帯はの尾していって を持てるっとくせってく新むとれる であて一を安めちゃくしま」なある「しきっと 新楚奉優のむり 分二千年本成の写電 を贈削忽後と讃して類回からち あれとし情哉不幸短令うてれるのたん 優病すしてみなれるとろるるとでなれ 不を真をしるいは部とはき 勇るしてへ 行いるといる一れしく今代に行きふち

ち中地西五

尼入たの耳をとしてあるののになって れんそしたの大くかるいて人のなるちれあれい から一時他院と俗談事就しためなる 事活していれありそのれあんし歌られる るいとしてるよくするに次のすりあんせん 人をえるいるまませけるうつかしまされる そくいな児の親とろうからくもほとさ 日本ライ金州してるとおきとしてあ し信とされずとては一角あれてもありれると

て他浩の屋宝了自在といろられにかかっ

或を長く或を経くそそれ自由あるよう いれめの北痛とあてもかれるずゆくい けるよけずん人の及って不とあけて近くれ 大ちろうなけまっとおれせたの語りが作 きつかれるうに他ばとろうとれては の家ほらん遠く一世の家該と変いて ろしてあるの耳とからもとすてんはの 作りて対え帯あるとろうかりてき 就ひるよりてきるねってに他院ときら 一様の優えあるとくのなるろれるいんとや

京保険はこの

野田岭兵衛

獅子庵遺稿

你豁書為精同録

本朝文盤

十論 為轉物

全大全日全十全新全日全年会長会長を持ち、一年を持ち、一年を持ち、一年を持ち、一年を持ち、一年を持ち、一年を持ち、一年を持ちまる。

和淺而花賦

能語古今初

論

語

先後初

新撰大和詞



更くてはれいとというられる 古今村港五 言保度成之月の

